

<p>児童の実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを話すことはできるが、聞き手の聞きたいことを意識して話すことについては課題がある。また、話し手の伝えたいことの内容を捉え、大事なことを漏らさずに聞くことが難しい児童が多い。 ・書くことに関して、得意な児童もいる一方で、書くこと自体を苦手と感じている児童も多くおり、個人差が大きい。また、何を書いたら良いか分からず、書き始めるところから止まってしまう児童もいる。 ・読書好きな児童が多く、物語文の登場人物の特徴や心情・場面の描写を捉えることは比較的できているが、前後のつながりを考えて深く丁寧な読み取りが苦手な傾向がある。 ・適切な敬語を選ぶなど、場に応じた話し方について課題がある。 ・漢字を正しく書く力は高まってきている。 		
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>視点1 上二小授業スタンダードの徹底</p>	<p>視点2 読み解く力の育成</p>	<p>視点3 「探究の時間」またはその他の教科との連携</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・めあての提示と振り返りを行い、学習内容の確認を確実にする。 ・ペアやグループ学習、交流や振り返りの時間を通して、お互いの考えを伝え合う場を設定し、自分の考えを広げたり深めたりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の中の言葉やキーワードを手掛かりにし、内容や要旨、書き手の考えを捉えさせていく。 ・「いつ」「どこで」「だれが」などの文章の構成を意識した「係り受け解析」の力を高める指導を行う。 ・本の読み聞かせや紹介を積極的に実施し、「読むこと」そのものに興味関心を高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業以外の時間にも、日常的に自分の考えを書く機会を設ける。苦手な児童の不安を減らすために、書き方や書く内容について、例示を示すなど、丁寧な指導をする。 ・国語科において身に付けた資質・能力をベースとして様々な教科で汎用的に活用できるような学習機会を設ける。
<p>その他授業改善に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎タイム」（朝のモジュール学習）の時間を活用し、漢字の読み書きについての定着を引き続き進めることで、文や文章の中で適切に使うことができるよう指導する。 ・読書活動の推進を図るために、区立図書館からの団体貸出制度を積極的に活用し、様々な文章や資料に触れる機会を多く持たせられるようにするとともに、児童の読書の幅を広げられるようにする。 ・スピーチの内容にテーマを設けるなど、話の焦点化を図り、話し手は聞き手を意識して話しやすく、聞き手は話し手の意図を捉えやすくするよう工夫する。 		

